

平成25年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：阿部泰記・湯川洋司

研究分担者：坪郷英彦・根ヶ山徹・平野芳信・高橋征仁・森野正弘・更科慎一

研究協力者：郭玲玲

○研究の概要と結果

1. 日本古代における物語文学がいかなる文化伝承の影響を受けているかについて解明するべく、平安期の文学作品である『源氏物語』の舞と音楽に関わる叙述について考察する。その結果、『源氏物語』の舞と音楽に関わる描写において、古記録や歴史物語に見られる文化伝承の引用を確認することができた。(森野)
2. 村上春樹の最新作『『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』論－鏡の國のたさき創－』（山口国文第37号 2014・4 1～12頁）を発表した。(平野)
3. 明清兩代に上梓された『牡丹亭還魂記』の版本18種、曲譜3種を校合し、『『牡丹亭還魂記』匯校』の修訂作業をおこなった。山東大学出版社から出版する予定であるが、正字を用いたため予想外に時間を要し、現在三校を終えたところである。(根ヶ山)
4. 宣講書『万選青錢』『萃美集』『触目警心』を収集することによって、四川をはじめとして全国各地で聖諭宣講が行われたことを明らかにし、論文3篇を発表した。(阿部)
5. 前年度の研究結果を更に深化させるべく、ベトナム語、チャンパ語などを表記した会同館系『華夷訳語』の音訳漢字の分析を行い、明代中国の異言語研究の一端に対する理解が深まった。『元朝秘史』に関しては、関連書籍を渉猟し、最新の研究概況の把握に努めるにとどまった。(更科)
6. 那覇市および岡山市において、震災避難者に対するインタビュー調査を行った（8月23～27日）。避難の経緯や家族関係によってレジリエンスやトラウマ後成長に大きな違いが生じていることがわかった。(高橋)
7. 秩父市内田家の修理保存工事の進捗状況及び屋根・内部構造の把握を実施した。これまでの屋根葺き及び入会茅場の慣行について The 3rd East Asian Anthropological Forum (Ullung Culture Center, Korea, 2013.6.10) に於いてRegionality and change of the thatched roof in Japanのテーマで研究発表を行った。(坪郷)
8. 福島県南会津郡の伊南川流域に伝承されてきた民俗芸能に関する調査を実施した。具体的には、南会津町小塩の小塩神楽に関する道具類と関係者からの聞き書き、同町鶴巢の早乙女踊りの関係者からの聞き書きを行い、それぞれ現在までに継承されてきた経緯と現状について確認した。また南会津町大桃の舞台、南会津郡桧枝岐村の舞台を見学し、関係者から現状について確認し、民俗芸能が村落生活の維持に果たす役割を考察する基礎資料を得た。(湯川)

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

1. 森野正弘、「冷泉帝の行幸における舞と音楽」、『新時代への源氏学 第6巻 虚構と歴史のはざままで』、竹林舎、平成26年5月25日、187～215頁
2. 平野芳信「『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』論－鏡の國のたさき創－」、山口国文、37号、2014年4月、1～12頁
3. 阿部泰記、「『触目警心』五巻：湖北の物語宣講書」、山口大学文学会志、64巻、2014年3月、1～20頁
4. 阿部泰記、「『万選青銭』四巻：簡易宣講書の先駆」、異文化研究、8号、2014年3月、51～62頁
5. 林宇萍・阿部泰記、「漢川善書の台書上演：『奎星下界』を例として」、アジアの歴史と文化、18輯、2014年3月、1～19頁
6. 阿部泰記、「四川の宣講書『萃美集』五巻：物語化する案証」、アジアの歴史と文化、18輯、2014年3月、21～35頁
7. 高橋征仁「沖縄県における原発事故避難者と支援ネットワークの研究2～定住者・金地避難者との比較調査～」、山口大学文学会志、65巻、2015年3月、1～16頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

1. 更科慎一、「『八百館訳語』音訳漢字の声調」、華夷訳語国際学術研討会（中国社会科学院民俗学と人類学研究所）、2013年12月7日～11日
2. 阿部泰記、「湖北漢川善書研究」、武漢大学社会学系、2013年11月28日
3. 阿部泰記、「關於包公的伝説及其研究」、武漢生物工程学院、2013年12月3日
4. 阿部泰記、「從山口出發的東亞文化研究」、文藻外語学院、2014年3月6日
5. 阿部泰記、「中日王昭君故事比較研究」、中興大学中文系、2014年3月7日
6. 高橋征仁「逆境を生き抜く力～レジリエンスとPTG」、関西学院大学阪神・淡路大震災20年企画公開授業「災害復興学～震災バネがつくった私の人生」
<http://www.ustream.tv/recorded/54400790>、2014年10月24日
7. 坪郷英彦、「Regionality and change of the thatched roof in Japan」、The 3rd East Asian Anthropological Forum(Ullung Culture Center ,Korea)、2013年6月10日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

1. 根ヶ山徹・尾崎千佳編、『山口大学所蔵和漢古典籍分類目録続』、山口大学人文学部、平成27年3月31日、120頁

○プロジェクト名

東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的・実証的比較研究

○研究組織

研究代表者：植村高久・塚田広人・横田伸子

研究分担者：横田尚俊・渡邊幹雄・濱島 清・朝水宗彦・角田由佳・陳 建平・石川耕三

○研究の概要と結果

(日本を除く)東アジアの経済発展は急速な新興富裕層・新興中間層の増大を伴いつつ、概して格差拡大として特徴付けられる「新しい格差」の発生と複雑な動態的变化が進むという固有の特徴を持つ。これはヨーロッパ諸国やアメリカとは明らかに異質で、たんなる所得の格差を超えて、教育・医療・生活環境・コミュニティのあり方等、非常に多面的なアクセス可能性の違いという特徴を示している。格差拡大が大きなテーマになっている日本も含めて(さらに東アジア以外の諸国との対比も交えつつ)、こうした東アジア諸国の格差について、各国ごとの差異と共通性に注目しつつ、その全体像と側面間のつながりを明らかにすることがこの研究の第1の目的である。

さらに、東アジア諸国の多くが急速な経済発展の途上で急激な高齢化を迎えることが将来の深刻な問題をもたらす可能性が高い。旧来の社会の分解が進んだため高齢化に対処するための公的社会保障制度の整備が必要となるが、ふつう社会保障制度(年金等)は制度創設から定常的な機能に至るまでかなりの期間を要する。この点を考慮すれば、格差が生む問題が高齢化によって顕現・深刻化し、非常に厳しい社会問題に発展する事態が予想される。本研究は格差の実態とともに将来に向けた推移と社会保障制度などの整備状況を検討することを通じて、急速な高齢化の社会的意義を解明することを第2の目的にする。

なお、本年度は本プロジェクト研究の構成部分にあたるアジアの非正規雇用問題の研究について、9月に本学が梨花女子大学との重点連携事業に指定した。このため、当初の研究計画を一時中断し、26年3月1日に「キックオフプロジェクト「非正規労働者と貧困問題」日韓フォーラム」を理科女子大学から3名の研究者を招き、さらにマツダ派遣切り訴訟 労働者側弁護団と非正規問題の権威、福原宏幸大阪市立大学教授を招いて開催した。

日韓フォーラムは約100名の参加者があり盛会であったほか、日韓の非正規問題の状況の違いも明確に認識でき、今後の共同研究の出発点を確保した。次年度も共同研究を進める予定である。

なお、この成果は経済学部・東亜経済学会刊行の『東亜経済研究』26年8月号に掲載予定であり、以下の内容が予定されている。

1. 横田伸子「日韓非正規労働者と貧困問題 特集に寄せて」
2. イ・ジュヒ(梨花女子大学)「韓国の非正規労働者の実態と社会保障」
3. ユ・ヒョンゲン(梨花女子大学)「韓国非正規労働者の組織化の現況と新しい方策——製造業社内下請労働者の組織化を中心に——」
4. 内山新吾・大賀一慶(弁護士)「自動車メーカー・マツダの「派遣切り」裁判」
5. 友岡有紀(梨花女子大学・大学院)「韓国における低所得層政策の歴史的展開とその現況——自活事業を中心に」

○プロジェクト名

東アジアの教育におけるグローバル化と伝統文化

○研究組織

研究代表者：福田隆眞、葛崎偉

研究分担者：西村正登、石井由理、有元光彦、森下徹、村上林造、吉村 誠、松岡勝彦
田中理恵

研究協力者：羅 永華（香港大学）、吉川幸男（山口大学教育学部）、林 曼麗（国立台北教育大学）、金香美（淑明女子大学）、佐々木宰（北海道教育大学）、足立直之（山口市教育委員会）、チーフー・ラム（シンガポール南洋工科大学国立教育院）、何慧中（香港場バプティスト大学）、高橋雅子（山口大学教育学部）、阿川祥子（山口市立阿知須中学校）

○研究の概要と結果

本研究は東アジアにおけるグローバル化の現状調査と伝統文化について調査研究を行うプロジェクトである。調査方法は文献調査と実態調査によるもので、本年度は中国、台湾の調査を実施した。また、プロジェクトの協力者を学内外から求め、台湾、香港、シンガポール、韓国の研究者等を交え、東アジア国際学術フォーラムの継続的研究の成果として山口大学東アジア研究叢書2『教育におけるグローバル化と伝統文化』（建帛社刊）を出版した。

本書では以下のような内容を公表した。「グローバル化時代の国際理解と伝統文化」（石井）、「グローバル化、文化的継承、そして教育：中国の苦闘と体験」（羅）、「文法ルールの言語教育」（有元）、「東アジア伝統社会論と近世日本」（森下）、「伝統や文化の教育における論点と実践課題：小学校社会科教育の題材から」（吉川）、「美感と創新：芸術教育の過去、現在と未来」（林）、「韓国の学校教育におけるグローバル化と伝統文化教育」（金）、「マレーシアの美術教育にみられる伝統文化と視覚言語」（福田）、「シンガポールの美術教育における伝統文化と現代化」（佐々木）、「美術教育における日本の伝統文化に関する指導の一事例」（足立）、「グローバル化と伝統文化：シンガポールの音楽教育に関する視点」（ラム）、「台湾と中国本土の学校音楽教育における大衆歌曲の活用に関する比較研究」（何）、「音楽科教育と文明受容型国際化：三期の歴史的視座からの検討を中心に」（高橋）、「日本伝統音楽の魅力を探る：歌舞伎勸進帳の鑑賞」（阿川）である。

また、このプロジェクトに関連する研究成果も得た。（以下を参照）

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

・森下 徹「近世後期における萩の町人社会」（『近世社会史論集』東京大学日本史研究室、2013年4月、145-158頁）

築] コンピュータ&エデュケーション, Vol.35, pp.68-71 (2013.12).

・L.Chen, Q.W.Ge, M.Nakata and H.Tonou, 「Block Construction for Task Graphs」, Information,

vol.16, no.12 (B) (2013.12).

- ・有元光彦、Vuong Thi Bich Lien、「若年層における感動詞の独立性」、『研究論叢（山口大学教育学部）』63-1, pp.51-68, 2014年1月 大学教育学部論叢第63巻第1部・第2部
 - ・松岡勝彦（2013）自閉性障害のある児童における返礼行動の形成と般化－他者からの物品・行為・情報の提供に対して－. 自閉症スペクトラム研究, 10 (4), 47-53. Proc. ITC-CSCC2013, USB-Version (2013.07)
 - ・長田, 呉, 中田, 葛, 「東洋医学の陰陽五行説に基づいた五臓六腑のベトリネットモデルの提案」, 電子情報通信学会信学技報, vol.113, no.466, pp.113-118 (2014年3月).
 - ・吉村「春過ぎて」－持統天皇御製における香具山の観念」単著 2013.8（平成25）山口国語教育研究第23号
 - ・吉村「『古事記』倭建命の「国思歌」の挿入要因」単著 2013.12（平成25）山口大学教育学部論叢第63巻第1部・第2部
- (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
- ・吉村 万葉輪読会口頭発表 2014（平成26）.3「山上憶良「貧窮問答歌（巻五・八九二、八九三）」論 一 家族表現を契機として一」
（万葉輪読会口頭発表 2014（平成26）.3 王萱「大伴家持の漢詩（『万葉集』巻一七
 - (3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）
- ・福田隆眞、石井由理 編集 『教育におけるグローバル化と伝統文化』 建帛社 2014
 - ・森下 徹「岩国藩江戸屋敷普請と町人社会」（『大名江戸屋敷の建設と近世社会』中央公論美術出版、2013年12月、351-368頁）
 - ・西村正登『価値多様化社会における心の教育』風間書房（単著）
-

○プロジェクト名

東アジアにおける医療供給体制と企業の役割

○研究組織

研究代表者：石田成則

研究分担者：中田範夫、城下賢吾、李海峰、有村貞則

研究協力者：

○研究の概要と結果

これまで継続してきた研究プロジェクトでは、企業経営および市場の視点から、主に東アジアに進出しているグローバル企業の実態調査に従事し、その経営戦略、組織そして人材育成について研究してきた。また、サービス産業とくに東アジア諸国の人口高齢化を睨んで、医療・介護経営に特化して調査している。そして、病院を中心とした医療施設・介護福祉施設経営のあり方と医療供給体制や医療費管理に果たす企業の役割に焦点を絞り、それを理論と実証の観点から分析した。さらに、従来の実態調査結果を踏まえつつ、こうした産業・事業における問題点を抽出し、その解決のために政策提言を行った。具体的には、これまでに実施したアンケートおよびインタ

ビュー調査を統計的に処理して分析するとともに、優れた経営力を持つ施設については事例研究として取りまとめた。そのうえで、患者や施設利用者へのサービス水準を向上させるために、どのような管理体制や組織を構築すべきか、またどのように人材を養成すべきかについて考察を加え、効果的な病院や施設マネジメントについて提言を行った。とくに、看護婦や介護福祉士の業務に焦点を当て、医療・介護事故を減らしてより高い水準のサービスを提供する方途を解明した。提言では、こうした職種のスキル向上のために、長期に安心して勤務できる体制作りが第一に重要とした。勤続年数の長期化のためには、1) 社内教育・研修体制の充実、2) スキルアップのためのモチベーションの向上、3) リスク情報の共有化、以上の3点が必要となることを指摘した。そして、こうした要因によりサービス水準がどの程度引き上げられるかについて、実証分析を展開し望ましい施策を考案した。

また、国内の3県（山口、広島、福岡）にまたがって、介護保険施設の実態調査を敢行し、その成果を論文にまとめた。こうした施設内の事故発生の要因を、組織・勤務体制、施設設備、そして人材・教育の3点に絞って解析を行った。結論として、勤務体制や人材教育のあり方によって事故の発生率やその規模が左右されることを発見した。こうした実証結果を受けて、人材の採用や育成方法について、具体的な提言を行った。

こうした理論ベースに基づき、わが国をはじめとした先進国と中国を中心としたアジア諸国の医療制度の現状と課題、医療制度における官民保険者の役割、そして個別病院や介護保険施設の人事・財務・会計分析を展開し、いくつかの論文を専門雑誌・紀要に投稿し、さらに学会報告を行った。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・有村貞則「ダイバーシティ・マネジメントと障害者雇用は整合的か否か」『日本労働研究雑誌』5月号、2014年5月、51-63
- ・城下賢吾「安全引き出し率：国際比較」『商学論究』、2014年3月、45-65
- ・中田範夫「病院の経営管理機能についての第6回調査－電子カルテ、原価計算、BSC及び財務を中心に－」『山口経済学雑誌』第62巻第5・6号、2014年3月、1-341
- ・中田範夫「BSCに関する6回のアンケート調査－平成16年から25年における郵送調査－」『医療バランスト・スコアカード研究』第11巻第1号、2014年9月、93-104
- ・Haifeng Li, Jiaoyang. "Online Shopping in China: An empirical study of online consumer behavior", Proceedings of the 10th Biennial Conference of Asian Consumer and Family Economics Association, ACFEA 2014, Taiwan, 100-106
- ・石田成則「予防医療と検査入院における民間保険の役割」『損害保険研究』第75巻第4号、2014年2月、157-182
- ・石田成則「わが国における医療費の償還方式と医療政策」『MS & AD基礎研レビュー』第15号、2014年2月、16-29
- ・石田成則「保険償還方式の分類と誘因体系の比較分析」『早稲田商学』第439号、2014年3月、115-144

- ・石田成則「医療保障における官民の役割分担」『保険学雑誌』第625号、2014年6月、71-92
- ・石田成則「国保保険者の財政状況とその改善策」『週刊社会保障』第2823号、2014年8月、44-29
- ・石田成則「医療保険における官民役割分担」『季刊個人金融』第9巻第4号、2015年、1月、24-40

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

- ・有村貞則「ダイバーシティ・マネジメント研究の動向—多様性をいかすことの意義と方法」日本体育・スポーツ経営学会 第50回研究集会（早稲田大学東伏見キャンパス）、2014年1月24日
- ・城下賢吾・木下真「退職後の引き出し率」生活経済学会全国大会（長崎大学）、2014年6月22日
- ・焦陽、李海峰「中国におけるオンラインショッピングの発展と消費者行動の変化」日本消費者教育学会全国大会、2014年10月4日
- ・李海峰、孫愛淑「中国の市場経済発展に伴う消費者行動の変化」日本消費者教育学会全国大会、2014年10月4日